

# ふくしまかれん (リンドウ)

＝福島県農業総合センター＝



- この可れんな花色のリンドウが「ふくしまかれん」です。
- このリンドウは、ピンクのササリンドウにエゾリンドウ(ピンク)系を交配してつくりあげたF1(一代雑種)品種です。
- 花の色は紫ピンクで、9月中旬～下旬に開花します。夏に冷涼な山間地域での栽培に適しており、平成12年から本格的な栽培が始まります。



「ふくしまかれん」は生育が旺盛なので、植付けをして2年目から収穫できます。花数が多く、咲き揃いが良いので、ボリューム感があるのが特徴です。



他の花との色合わせの幅が広いので、生け花をはじめフラワーアレンジメントの材料(素材)として期待されます。

## 「ふくしまかれん」の特性と栽培技術について

### ◆「ふくしまかれん」の主な特性

- エゾリンドウとササリンドウの交雑F1品種(根の形質の違い→耐乾・耐暑性への期待)
- 紫系ピンクの花色、ササリンドウ特有の花型
- 生育旺盛(草丈130～150cm)で、定植2年目より5本前後の採花が可能。
- 開花期9月中～下旬の晩生種で、開花揃い良い。(開花順序は一斉、開花期間は2～3週間)
- 側枝の発生が多い。(アレンジメント利用の可能性)
- 展葉初期の葉が萎縮する可能性があるが、その後は回復する。(サマーハイジほどは目立たない)

### ◆栽培管理技術と注意点

- 圃場の選定と土作り
  - ▶排水の良い水田転換畑(土壌病害虫が少なく、灌水管理しやすい酸性土壌)
  - pH5.0～5.5→pH6.0を超えると新葉の黄白化等鉄欠乏症発生、花色も薄くなる傾向
  - 「かれん」はササリンドウ系雑種のため、灌水管理しやすい畑地でも栽培可能。
  - ▶土壌特性に応じた土作り(表2、資料1. 2)
  - 化学性の改善(pHは低くても塩基類を確保、火山灰土壌では有効態磷酸を確保)

- 物理性の改善(30cm以上の深耕→根の伸長抑制や過湿による根腐れ発生を防ぐ)  
(例)定植前年秋に10当たり完熟堆肥3tと熔燐100kg及び重焼燐50kgを施用後深耕する。

表2. リンドウ栽培土壌の基準値

pH (H <sub>2</sub> O)	EC (mS/cm)	塩基 (mg/100g)			塩基飽和度 (%)	有効態燐酸 (mg/100g)	CEC (me/100g)
		石灰	苦土	加里			
5.0～5.5	< 0.3	280	35	24	40～50	20～30	25

#### □定植1年目の管理

##### ▶▶基肥

基肥は速効成分を含む緩効性肥料や有機質肥料を主体に用いる。(3要素10kg前後)  
化成肥料等により濃度障害が生じやすいため、定植1ヶ月以上前に施して土に良く混和させる。

##### ▶▶畦立て・マルチ

畦立ての耕起は砕土を十分行い、マルチと床表面に空間ができないようにする。  
畦幅・通路を75cm程度とし、畝の高さを20cm以上確保する。(圃場の乾燥・多湿度で加減)  
マルチは0.03mmを用い、標高や定植時期に応じて黒マルチや白黒ダブルマルチを使い分ける。

##### ▶▶定植(適期は平均気温15℃頃)

「かれん」は生育が旺盛なため、栽植密度は条間40cm×株間20cmの2条植えと広めにとる。  
定植後は適切な灌水管理を行って乾燥を防ぎ、苗の活着を促進させる。(状況に応じて遮光)

##### ▶▶追肥・敷きワラ

梅雨明けまでにマルチの条間を切り取り、そこに追肥(3要素3kg前後)、敷きワラを行う。追肥の化成肥料は株元に近づけないよう注意する。  
苗の活着後も天候に応じてこまめな灌水管理を心がける。  
雑草が大きくならないうちに、早めに除草作業を行う。

#### □定植2年目の管理

##### ▶▶春先の管理

前年株の枯れた茎葉を抜き取り、圃場外に持ち出して焼却する。(耕種的防除法)  
萌芽前に緩効性肥料や有機質肥料を3要素6～9kg施用する。

##### ▶▶ネット張り

「かれん」は生育旺盛であり側枝発生も多いため、フラワーネットは15cm×15cm×5目のものを3段張りとする。(強風にも耐えられるよう横棒や針金で補強する)

##### ▶▶切花の追肥(リンドウの新根発生時期と養分吸収特性を考慮した肥培管理)

5月中旬～6月上旬頃、生育状況に応じて速効性の化成肥料を3要素4～6kg追肥する。

##### ▶▶収穫

「かれん」は2年目の収穫において規格外の弱茎以外を地際から30cmを残して全刈りしても翌年の切り花品質に影響が少ない。(資料3)

##### ▶▶越冬の管理

敷きワラの消耗部分は追加して2cm程度の厚さに敷き、1段目のネットを下げて押さえる。

#### □定植3年目以降の管理

##### ▶▶たばこ試験場の定植5年目株の生育状況

定植3年目以降は茎立ち数はあまり増えず、下部からの側枝発生量も減少。  
草丈の伸びは3年目をピークに4～5年目と徐々に樹勢が落ち着く。

- 基本的には定植2年目の管理に準ずるが、芽整理や施肥量の増加等によって生育状況に応じた樹勢管理を行っていく必要がある。(今後の課題)

#### □主な病害虫

- ▶▶病気(褐色根腐病、葉枯れ病、褐斑病、灰色かび病、花腐菌核病、茎枯病)
- ▶▶害虫(リンドウホソハマキ、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類、ヨコバイ)

## ◆今後のリンドウ産地のあり方

#### □極早生～極晩生まで開花期の異なる品種の幅広い導入

- ▶▶露地栽培7～11月出荷→収穫調整作業の分散化による個別経営規模の拡大
- 施設栽培の積極的推進

- ▶▶半促成6～7月出荷＋加温促成4～5月出荷→4～11月出荷産地
- ▣ピンク・白等豊富で多様な花色・花形の品種導入
- ▶▶消費者の多様なニーズを刺激・開拓していく→トルコギキョウのような品目イメージの確立
- ▣大型市場の長期的な安定量需要に対応
- ▶▶継続出荷による長期的な中での平均価格の安定→経営の安定化